

観光協会特約店⑥

フラワーアレンジメントで年間を通じ癒しの空間づくりに努める
【花工房・竹水園の聖マリアンナ医科大学店】宮前区菅生2-16-1
TEL 044-976-3887

竹水園・聖マリアンナ医科大学店を訪ねたのは昨年12月半ば。いよいよ本格的に寒さの募る頃、冬の時季は花が少ないが、竹水園には多種多様の花々で満ち溢れています。

店主の竹間重雄さんはちょうど、「花キューピッド」で注文を受けたお客様にお花を届けて戻ってきたところでした。竹水園が加盟する「花キューピッド」は、北は北海道から南は沖縄まで日本全国約5000店加盟のお花のネットワークです。注文主が「花キューピッド」加盟店に来店し注文していただくと、同加盟店はお届け先の最寄りの加盟店に連絡しあう届けするシステムです。竹水園に注文すれば、全国の知人・友人等にお花をお届けすることが出来ます。

竹間重雄さんは元は花づくりをしており、その経験を活かして昭和50年に聖マリアンナ医科大学店を開店。聖マリアンナ医科大学附属病院に入院の患者さんをお見舞いに来たお客様ご注文の花、花束やフラワーアレンジメントを中心に販売しています。「お見舞い用には、匂いのあるお花を避け、癒される色合いの淡いピンクや明るい青のお花でアレンジします。一方、贈答用の場合は、派手な明るい色のお花で」と竹間さん。

また「病院内にフラワーアレンジメントの自動販売機を設置し、お見舞いのお客様にご好評をいただいている」と竹間さんは、「季節々で花の材料は色々変わります。クリスマスの時季はポインセチア等原色の濃い花、正月には新年用の縁起の好い松や千両や万両、そして春はお花が豊富でアレンジメントも多彩になる。年間を通じフラワーアレンジメントを介して、癒しの空間づくりに努めています」と語って(坪井喬記)

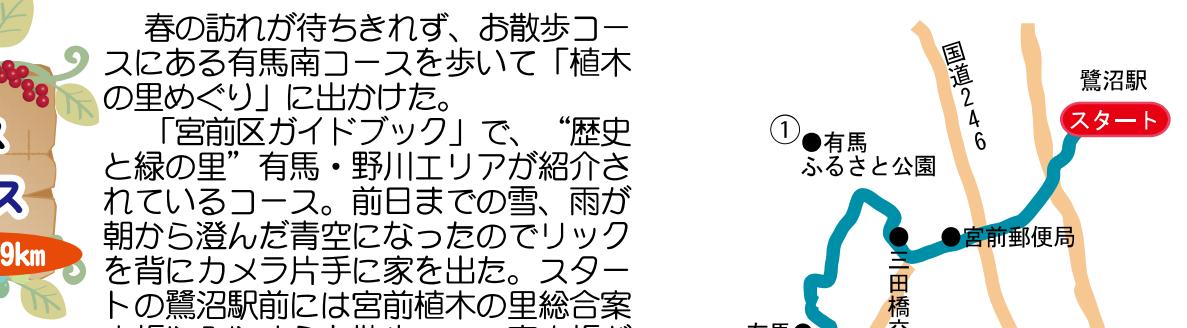
《竹水園・聖マリアンナ医科大学店
店頭で竹間重雄さん》宮前直売グループ
直売所

宮前区内の農家が集まって野菜を出し合って運営している直売所です。正会員は4名で、その他に出荷協力をしている会員が20名。開店時はいつもたくさんの野菜が並び、店内は買い求めるお客様で溢れます。出荷品目はお客様の声を聞いて品揃えに反映し、その時期の新鮮な旬の野菜を取り揃えています。販売は毎週日曜、火曜、木曜の午後12時30分からで、季節によって若干の違いがありますが5時頃まで行います。

直売所は宮前区野川1018 パシオス野川店のとなり
TEL044-866-4231 宮前支店営農課梶が谷または鷺沼からバス
山下バス停下車、徒歩2分JAセレサ川崎
<http://www.jaceresa.or.jp>

宮前区で気になる話題や宝物などの情報がありましたら、ご連絡ください。また、会員・特約店も募集中です。
みんなで楽しい紙面にしていきましょう！！
つながるみやまえ 宮前区観光協会ホームページ
<http://www.miymae-kankou.net>

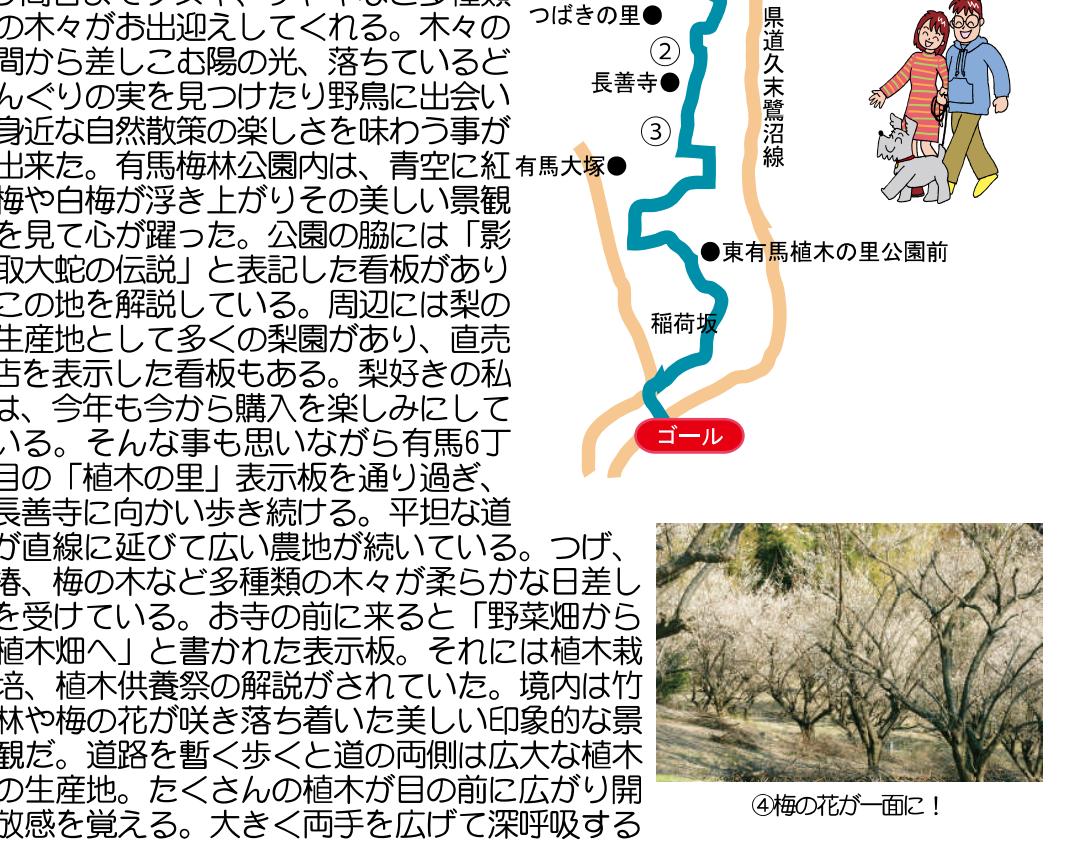
エ考前でんすりたはてう集い△あもじく類し至宮▼編集後記
ツえは好グ。アが、くちをい△り取た。をめる前梅トて、評もガご、有だの企くちま材時目脱ま所区にの坂配いイと『馬さ子画』やしを間にぎ。次とおお付いドに宮南いをそんた通で映捨て。桃の散中でブ10前おね載てこで。じしる景て(坪井)と桃のそか歩がですツコ区散。せみです。初敵。片スイコ渡いい近うめな(青柳)のし会柳のし▼開花は、と、も:いいま(永役に掲ブス寛思思うのし会柳のし▼開花は、と、(高橋弘すす泰地のさク紹方まにが、が美れの厚楽幸ね。雄域ウレ)介▼声す。一〇い)をんい(健ダ康▼興いはま頭か是トか家ば今でりイを宮課キまエしでけ非特わのい回感歩

人が好き
緑が好き
まちが好き発行：宮前区観光協会 編集・作成：宮前区観光情報取材記者
事務局：宮前区役所地域振興課TEL. 044-856-3135 <http://www.miymae-kankou.net>

春の訪れが待ちきれず、お散歩コースにある有馬南コースを歩いて「植木の里めぐり」に出かけた。

「宮前区ガイドブック」で、“歴史と緑の里”有馬・野川エリアが紹介されているコース。前日までの雪、雨が朝から澄んだ青空になったのでリックを背にカメラ片手に家を出た。スタートの鷺沼駅前には宮前植木の里総合案内板やみやまえお散歩コース案内板が

設置されている。この周辺は、桜並木が続き春になると桜の花が道行く人びとに感動もたらしてくれる。県道久末鷺沼線を久末方面に下り三田橋交差点から有馬ふるさと公園に向かう途中、道路から見える民家の見事な庭園は梅や早咲き桜などが咲き誇りその素晴らしいしさに思わず立ち止る。公園に入り高台までクヌギ、ケヤキなど多種類の木々があ出迎えしてくれる。木々の間から差しこむ陽の光、落ちているどんぐりの実を見つけたり野鳥に出会い身近な自然散策の楽しさを味わう事が出来た。有馬梅林公園内は、青空に紅梅や白梅が浮き上がりその美しい景観を見て心が躍った。公園の脇には「影取大蛇の伝説」と表記した看板がありこの地を解説している。周辺には梨の生産地として多くの梨園があり、直売店を表示した看板もある。梨好きの私は、今年も今から購入を楽しみにしている。そんな事も思いながら有馬6丁目の「植木の里」表示板を通り過ぎ、長善寺に向かい歩き続ける。平坦な道が直線に延びて広い農地が続いている。つげ、椿、梅の木など多種類の木々が柔らかな日差しを受けている。お寺の前に来ると「野菜畑から植木畠へ」と書かれた表示板。それには植木栽培、植木供養祭の解説がされていた。境内は竹林や梅の花が咲き落ち着いた美しい印象的な景観だ。道路を暫く歩くと道の両側は広大な植木の生産地。たくさんの植木が目の前に広がり開放感を覚える。大きく両手を広げて深呼吸するとすがすがしい気分になった。長善寺を後にコースを変更して歴史ある下有馬不動尊に向かう。広々とした農地、桃畠を過ぎて境内に入ると記念碑、椿の木、「幽霊階段」と呼ばれている長い石段、不動立像を見て廻る。こんな



身近な場所に由緒ある建物があることに感銘を受けた。眼下に広がる梅林、梅の花が一面に！

何本位あるだろうか一面に広がる木々が春到来を告げている様に見事に咲き誇っている。僅か数時間のお散歩でしたが、緑が多く自然豊かなこの地を歩く楽しさを見つけた貴重な体験でした。(青柳和美記)

宮前区の歴史



泉福寺
宮前区馬絹

薬師如来像160年ぶりの御開帳

昨年10月15日、馬絹神社例大祭における神輿の第4番目の神酒所が泉福寺の境内、神輿の供をしてきて私は初めて同寺の存在を知った（本紙前第5号参照）。神輿がひととき鎮座したのが樹齢700年樹高15mの銀杏の巨木の傍らであった。美しい黄葉を纏った大銀杏を撮影するため



《160年ぶり御開帳の薬師如来像》

晩秋に再び泉福寺を訪ねた。そのとき門前の掲示板に、薬師如来が12月21日から23日までの三日間、御開帳される旨の案内があった。

その12月23日、薬師如来を拝観するため三たび泉福寺を訪ねた。門を入ってすぐ右手の三佛堂が開放されていた。中に入ると、正面中央に薬師如来、向かって左に聖觀世音菩薩、右手に千手觀世音菩薩が鎮座しておられた。

三佛堂内では、住職と檀家の方々が懇談されていた。住職のお話では、薬師如来の御開帳は160年ぶりのことであった。三佛堂が平成13年に改築されてから最初の寅年に御開帳の運びになったのは、薬師如来と虎の深い縁に因む、と住職のお話であった。そして今後、御開帳を何年後にされるのか全く未定、そもそも御本尊とは秘仏であればこそ有り難く、例えば浅草寺の御本尊などはついで御開帳された記録がない、と。

泉福寺の三佛堂本尊薬師如来は、泥中出現薬師如來縁起書によれば、嘉永元（1848）年5月の初め、当所の農民が集つて用水掘の清掃中、泥中から異様な光を発し出現したと伝えられる。

その用水は現在、何処を流れているのか尋ねると、「昔、この寺の傍を流れていたが今はないと住職の傍らに座っていた檀家の方が言う。信州・善光寺の御本尊も川の中から出現した類似について私が述べると住職は、「本田善光（よしみつ）が難波の堀江で如來像を拾い上げ、信濃に持ち帰った。善光寺の寺号は、開山・善光から採られた」と話された。読みは、「よしみつ」から「せんこう」となったが。

三佛堂には、泉福寺秘蔵の二面の絵馬が開示されていた。二面とも川崎市重要歴史記念物に指定されている。

一面は、「板面着色絵馬泉福寺薬師会図」で、墨書銘により嘉永七（1854）年制作と判明。画面のほぼ中央左寄りに大銀杏、その右奥中央に御開帳中の薬師堂本尊の薬師如來像が描かれている。薬師如來像の傍らには僧侶が描かれ、境内には、参詣の善男善女が描かれている。描かれた人數を二度、三度と数えてみると52人、集う境内の賑わいが伝わってくる。描かれた52人は、52通りの表情が活き活きと活写されており、52人の配置も見事である。落款はないが、当代一流の浮世絵師の肉筆になるものと思われる。

泉福寺の寺号の由来について尋ねると、住職から「大銀杏の根元近くに、泉が湧いていたからです。ご覧の絵馬にも描かれているでしょう」との答え。改めて「板面着色絵馬泉福寺薬師会図」を目を皿のようにして見ると、確かに大銀杏の根元の手前に泉が湧き出ている様子が描かれている。

もう一面は、「板面着色絵馬泉福寺境内相撲図」である。奉納相撲を描いたものだが、これが泉福寺境内における奉納相撲であると特定できるのは、画面の右端に大銀杏が描かれていることからによる。「春川画 安政四年巳年十月吉日 願主當所都倉氏」と墨書の銘文がある。安政四年は1857年。「春川」について、吉田暎二著『浮世絵事典』（画文堂刊）で調べたが、「春川」という絵師は存在したが、《安永年間（1772～1780年）に65歳で没》とあり、生きた年代が異なり、残念ながら別人であった。

泉福寺境内で相撲が奉納されたことについて住職のお話では、「昔は、相撲興行は年間10日で、あとは全国を巡業して回り、好角家、タニマチのもとで興行したりした。そうしたタニマチが当地にいて、当寺の大銀杏の傍らに土俵をつくって奉納相撲をさせたのでしょう」とのことであった。

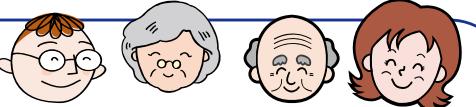
三佛堂には、足の不自由な老母を車椅子にのせておいでになった家族が、敬虔に三佛をお参りするなど、次々と檀家の方がおいでになり、住職は懇切に応接されていた。そうした御多忙のなか、私の色々な質問にお答えいただき有り難かった。住職に厚く礼を述べ、三佛堂をあとにした。

そのあと境内に設置の石碑等で泉福寺の来歴等概要を確認。以下、開基は年代不詳だが義天法印。中興は智賢法印[永正2（1505）年4月28日]。現在は30世。本尊は不動明王（武相不動尊靈場第23番札所）。阿弥陀如來と子育地藏尊を相殿。境内堂宇薬師堂は安政4（1857）年に当所柴原弥右エ門居士の寄進で、本尊は泥中出現薬師如來。相殿の千手觀世音菩薩は稻毛觀音靈場の第25番、また聖觀世音菩薩は第6番札所、云々。

大銀杏の傍らの花供養塔については前回訪問時に着かれて、耳慣れない供養塔なので、気になっていたことから先刻、住職にお尋ねし、「当地・馬絹は花卉栽培が盛ん、花の命で生計を立てている馬絹花卉生産組合の方々が花供養塔及び顕彰碑を建立された」旨伺った。平成15年8月17日に建立、以降毎年8月17日に花供養祭がとりおこなわれている。（坪井喬記）

会員募集

いっしょに夢づくり



宮前区には、名所遺跡・文化財・郷土芸能・地域産業など、地域の資源が豊富にあります。宮前区観光協会は、地域における観光事業の振興を図り、郷土・文化の発展に向けて事業展開することにより、地域の皆様が誇りと愛着を持つ、活力あふれる宮前区を創造していくことを考えております。

宮前区観光協会にご賛同いただき、ご入会いただける方は、下記事務局までご連絡願います。

会費（年額）は個人会員1□ 1,000円
団体会員1□ 5,000円
法人会員1□ 10,000円

なお、会員様におかれましては、宮前区内特約店（8店）にて
お買い物の際は、各種サービスを受けることができます。
申し込み先：宮前区役所地域振興課
電話044（856）3135 FAX 044（856）3119

竹林の間伐作業をする森人達

宮前区で活躍するイケメン二人の紹介

川崎北高校 吹奏楽部 石原君、龍福君



今、定期演奏会に向け猛練習中です。

お二人とも土曜、日曜は部活でプライベートの時間はクラシックのレコードを聞いたりしているとのことです。音楽をやりたくて北高を選んだそうです。宮崎台の桜祭り、ふれあいフェスタ、区民祭、白百合幼稚園、そのほか区内のイベントやいろんな場所で演奏しています。是非見てくださいね。

記者からの質問： お二人お勧めの店を教えてください。

答え：学校前のかどやさん、かえ玉、ちまき、チーズもっちが美味しいですよ。



《お勧めのかどやさん》



北高のそばに咲く花桃
花言葉：私はあなたのところです。

古くから桃の花には魔よけの靈力があると言われています。
「古事記」でイサナギノミコトが雷神から逃げる時に桃の実を3個投げつけたところ、鬼が逃げ去ったという話もあります。

春風に誘われて緑地から水沢の森まで平瀬川に沿って歩いてみました。
は～るの小川は・・・



①緑地の桜並木



④あめやさん（屋号）の庭先



⑤わき水広場の住人タヌキくん
「池の水を飲ませて下さいな」



竹林の間伐作業をする森人達



川がある所には人が集います。そして、ペットたちの散歩コースもあります。気さくな人たち、農家の庭先に咲く花、昔ながらの店、タイムスリップしてみてください。お待ちしております。



②手作り弁当 喜多方屋
みのもんさんの番組にでた時の写真と一緒ににはいポーズ



③中屋豆腐店
大豆をたっぷり使った手作り豆腐です。

（渡辺寛美記）



宮前区観光協会
特約店

- ・中国料理 嗜唯奴（シード）
- ・宮前平源泉 湯けむりの庄
- ・駿河屋製菓
- ・チーズ＆プリン工房
- ・高橋工務店
- ・DANDELION
- ・森永宮前ミルクセンター蔵敷販売所
- ・竹水園
- ・タウンニュース社
- ・都倉生花店

